

(第3種郵便物認可)

屋を返した。自宅セーリング「インターネット」の改正案を決定した。住宅の改修費用として最大2000万円を助成する他、低所得世帯の家賃を補助する仕組みも設ける。国土交通省は今秋にも制度を始める方針で、2020年度までに17万5000戸

自治体の財政難で公営住宅を増やすことが困難な中、人口が減って全国に広がっている空き家を活用し、単身のお年寄りや、所得面で広い家に住

全農肉牛 和牛最優秀に田中さん
枝肉共助会

J.A全農は5日、第36回全農肉牛枝肉共助会を大阪市中央卸売市場南港市場で開き、最優秀賞(和牛)に佐賀県江北町(和牛)に佐賀県江北町

受胎牛の血統は父「福華1」、母の父「安福久」、母の母の父「勝忠平」。枝肉重量は561.6kg、脂肪交雑(BMS)ナンバ1は12だった。ロース芯面積が非常に大きく、脂肪交雑が満遍なく入っていると評価を受けた。初の栄冠となった田中さんは「小まめな観察を

芳根(岡山)、勝忠平(茨城) 事業団)▽同3席(吉川) 徳島(長野)、百合茂、安福久) 同4席(山久保)徳島(鹿島) 同5席(安福久) 同6席(安福久) 同7席(安福久) 同8席(安福久) 同9席(安福久) 同10席(安福久) 同11席(安福久) 同12席(安福久) 同13席(安福久) 同14席(安福久) 同15席(安福久) 同16席(安福久) 同17席(安福久) 同18席(安福久) 同19席(安福久) 同20席(安福久) 同21席(安福久) 同22席(安福久) 同23席(安福久) 同24席(安福久) 同25席(安福久) 同26席(安福久) 同27席(安福久) 同28席(安福久) 同29席(安福久) 同30席(安福久) 同31席(安福久) 同32席(安福久) 同33席(安福久) 同34席(安福久) 同35席(安福久) 同36席(安福久) 同37席(安福久) 同38席(安福久) 同39席(安福久) 同40席(安福久) 同41席(安福久) 同42席(安福久) 同43席(安福久) 同44席(安福久) 同45席(安福久) 同46席(安福久) 同47席(安福久) 同48席(安福久) 同49席(安福久) 同50席(安福久) 同51席(安福久) 同52席(安福久) 同53席(安福久) 同54席(安福久) 同55席(安福久) 同56席(安福久) 同57席(安福久) 同58席(安福久) 同59席(安福久) 同60席(安福久) 同61席(安福久) 同62席(安福久) 同63席(安福久) 同64席(安福久) 同65席(安福久) 同66席(安福久) 同67席(安福久) 同68席(安福久) 同69席(安福久) 同70席(安福久) 同71席(安福久) 同72席(安福久) 同73席(安福久) 同74席(安福久) 同75席(安福久) 同76席(安福久) 同77席(安福久) 同78席(安福久) 同79席(安福久) 同80席(安福久) 同81席(安福久) 同82席(安福久) 同83席(安福久) 同84席(安福久) 同85席(安福久) 同86席(安福久) 同87席(安福久) 同88席(安福久) 同89席(安福久) 同90席(安福久) 同91席(安福久) 同92席(安福久) 同93席(安福久) 同94席(安福久) 同95席(安福久) 同96席(安福久) 同97席(安福久) 同98席(安福久) 同99席(安福久) 同100席(安福久)

農水省

建設業の参入促進
経営者230人集めシンポ

農水省は、地域に根付いた事業を展開する建設業者の農業参入を促す。3日には全国の建設業の経営者230人を集めて、2年ぶりと

るシンポジウムを開催。奥原正明事務次官が直接、参入を呼び掛けた。農業の担い手不足が深刻化する中、民間企業の活力を活用し、担い手確保につなげたいとしている。

シンポジウムの冒頭であいさつした奥原事務次官は「農業は耕作放棄地が増えている、高齢化が進んでいるといわれるが、企業が参入しやすい環境が整っていることに他ならない」と強調。

「農業界と経済界の垣根は基本的にはないという認識だ」とも述べ、農地中間管理機構(農地集積

パンク)を通じて土地改良の促進など、建設業の参入を後押しする考えを示した。

同省によると、農業に参入した一般法人は2016年6月時点で22222法人で、5年間で4.2倍となるなど順調に伸びている。うち、建設業は2226法人(10%)を占め、異業種からの参入

では、倉田関連産業の495法人(22%)に多い。

一方で農家の減少を背景に、荒廃農地は15年で前年比80000ha増の28万4000ha(推計値)に上るなど深刻化している。こうした中、同省は「地域に根付く建設業は、農地所有者の信頼も得やすい」と、農地賃借

の受け手として建設業を有視している。

シンポジウムでは、農業に参入し経営を軌道に乗せている6社が、耕作放棄地の再生や独自技術による野菜栽培などの取り組みを報告した。

中部森林管理局
などが受賞

16年度人事院
総裁賞

林野庁は3日、中部森林管理局計画保全部治山防止や地域住民の安全、安心の確保に貢献したことを評価された。

同庁の受賞は10年ぶり4回目。今回受賞した3つの部署は、連携して被災状況の確認、監視カメラ、雨量計の設置や山の土砂流出を防ぐ治山タマの設置・補修を行った。

授賞式は2月9日の午前11時45分から東京都港区の明治記念館で開く。

同賞は、1988年に創設され今回で29回目。有識者が構成される選考委員会が毎年選考を行っている。

熊本県相良村

日本のバレンタイン村
「個性豊くなる」聖地に

熊本県相良村は3日、「愛の聖地」として知られるフランスのセント・バレンタイン村の協力を得て「日本のバレンタイン村」として村づくりに取り組むプロジェクトを始めると発表。村名にちなんで「個性が良くなる」とPR。カッパル客の誘致を目指す。第一弾として「相良村

アレンタイン祭」を中心部にある複合施設「茶湯里」で12日に開催。クイズやゲームなどを通じてベストカッパルを選び、セント・バレンタイン村への旅行をプレゼントする。参加者には、漏れなく本家公認の「カッパル証明書」が贈られる。

徳田正臣村長は「来年以降も祭りを継続し、全国から人を呼べる村にしたい」としている。